

STOP 自殺 #しんどい君へ

6

2歳の時に原爆症で父を亡くし、かあちゃんは広島市で小料理屋をしながら、俺と兄ちゃんを育ててくれました。でも、家計が苦しく、小学2年の時に佐賀のばあちゃんの家へ預けられました。もともと貧乏で佐賀ではド貧乏にランクアップ。ばあちゃんは「自信を持ちなさい。うちは、先祖代々貧乏だから」と笑い飛ばしていました。

将来の夢はプロ野球選手。広島が強豪・広陵高校に特待生で入ることができました。ところが、1年の冬のけがで腕が曲がらなくなり、2年で退部。広陵は3年夏に甲子園に出場し

失敗2、3年で笑い話に

て、準優勝。憧れの場所でライバルが活躍する姿に悔しさも感じました。

その後、2歳の頃に妻と駆け落ちし、さらに、漫才コンビ「B&B」を結成して大ブレイク。だが、しばらくすると急降下し、約20

本あったレギュラー番組がゼロに。周りから人は去り、売れなくなったむなしさから眠れない日が続きました。睡眠導入剤を医者にも処方してもらい、「これ全部飲んだら死ぬのかな？」と考えたこともありました。

ある夜、ビートたけしから飲み誘われました。佐賀のばあちゃんの話になる

と、たけしは涙を流して大笑い。「暇なんだから、本にしろよ」と言われ、執筆したのが「佐賀のばあいはあちゃん」。映画化もされ、講演にもたくさん呼ばれるようになりました。

青春とか言うけれど、10代は挫折と失敗だらけ。完璧な人間なんて一人もおらん。失敗しても2、3年で笑い話に変わるから。

完璧な人間はおらん

漫才コンビ「B&B」として、「もみじまんじゅう！」のギャグで一世を風靡(ふうび)。1980年代の漫才ブームを作る。現在は講演も行う。著書に「死にたくなったら、これを読め！」。

漫才師 島田洋七さん 69



読売新聞オンラインの特設サイトで動画も公開中

2回目となる東京パラリンピックの開幕まで25日で1年となった。1964年の前回大会は、車いす選手に限定された国際大会(第1部)に続いて、視覚や聴覚など様々な障害を持つ日本選手による国内大会(第2部)が開催されたことは、あまり知られていない。第2部の視覚障害者卓球で金メダルを獲得した岡山市の竹内昌彦さん(74)は「パラリンピックが世界を広げて

2部は国内大会

年の「東京パラリンピック」は11月8～12日、陸上や水9競技に21か国の378選手した。戦争で傷ついた元兵ハビリをきっかけに始まったため、出場できるのは脊の車いす選手に限られた。ブルスでは日本初となる金ストも誕生した。

部は、視覚や聴覚、手足な害を持った人たちによる国で13～14日に開かれた。46県と沖縄代表の選手480人引参加の西ドイツ選手が4熱戦を繰り広げた。

障害者に日本のマッサー技術者を伝えて自立を支援する活動を展開。モンゴルでは、職業訓練学校の開設に中心的な役割を果たした。こうした活動の原動力となっているのがパラリンピックで培った経験という。

選手も大勢参加する。竹内さんは「今度こそ会場を満員にして、多くの人にパラリンピックを見てほしい。様々な障害への理解が広がるきっかけになってくれれば」と期待している。

山形 容山 人の女 山形 容山 夫の無 た事件 容山 殺人 発表 典子さ 22日 から「社 と通報 警察官 容疑者 夜に飛 し、23 番に出 車内 頭

野さん 23日 手泉釜 野誠子 野さん

当社指定商品 最短30分お届け